

将来推計人口(令和5年推計)の概要

第3回社会保障審議会年金部会
2023年5月8日

資料3

- 将来推計人口は、国勢調査(2020年調査)を出発点とした日本の将来人口を国立社会保障・人口問題研究所が推計したものであり、5年ごとに実施(今回の推計は、コロナ禍による影響を受け、スケジュールは1年遅れて6年ぶり)
- 前回推計より出生率は低下(1.44→1.36)
- 前回推計より平均寿命が延伸し、外国人の入国超過数も増加することで、総人口の人口減少は緩和

【推計結果】

- 今後、わが国の人口は、2020年の1億2,615万人から、2070年には8,700万人に減少。
- 高齢化も進行し、65歳以上人口割合は2020年の28.6%から一貫して上昇し、2070年には38.7%へと増加。

【前回推計(平成29年推計)との比較】

- 前回推計と比べ、将来(2070年)の出生率は1.44から1.36に低下。一方で、平均寿命は延伸し、外国人の入国超過数は増加する見通し。
- その結果、50年後(2070年)の姿を比較すると、
 - ・ 前回推計の8,323万人から今回推計では8,700万人に増加
 - ・ 高齢化率は、前回推計の38.3%から今回推計では38.7%と横ばいと総人口の人口減少は緩和。

※ 長期の投影に際しては、コロナ禍におけるデータは除外

日本の総人口

※《 》内は高齢化率

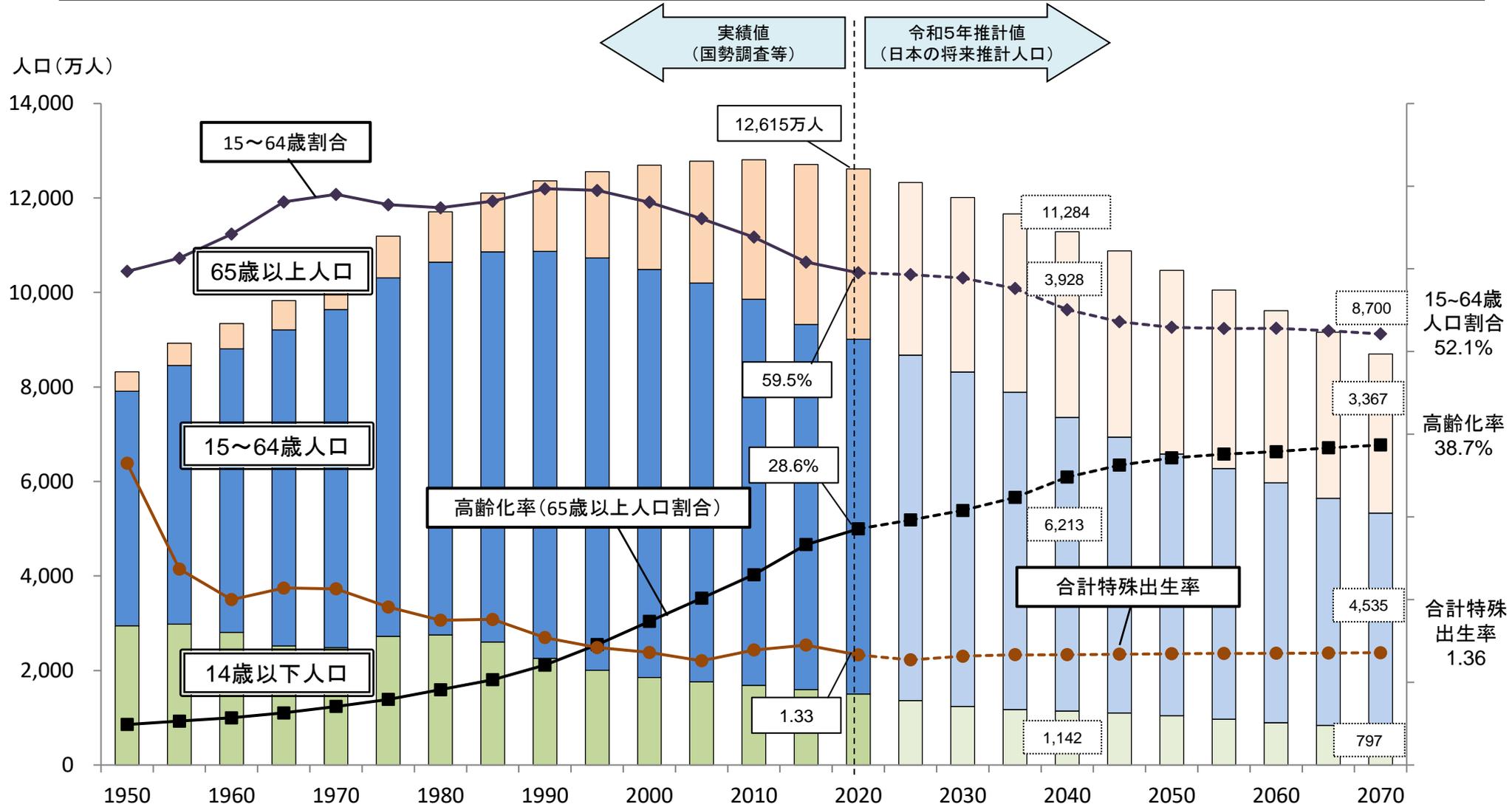
<実績>	<今回推計>	〔 前回推計 〕
2020年	2070年	
1億2,615万人	→ 8,700万人	〔 8,323万人 〕
65歳以上人口		
3,603万人	→ 3,367万人	〔 3,188万人 〕
《28.6%》	《38.7%》	《38.3%》
15~64歳人口		
7,509万人	→ 4,535万人	〔 4,281万人 〕
0~14歳人口		
1,503万人	→ 797万人	〔 853万人 〕

出生仮定を変えた場合の2070年の総人口、高齢化率

高位推計 (1.64)	9,549万人《35.3%》
低位推計 (1.13)	8,024万人《42.0%》

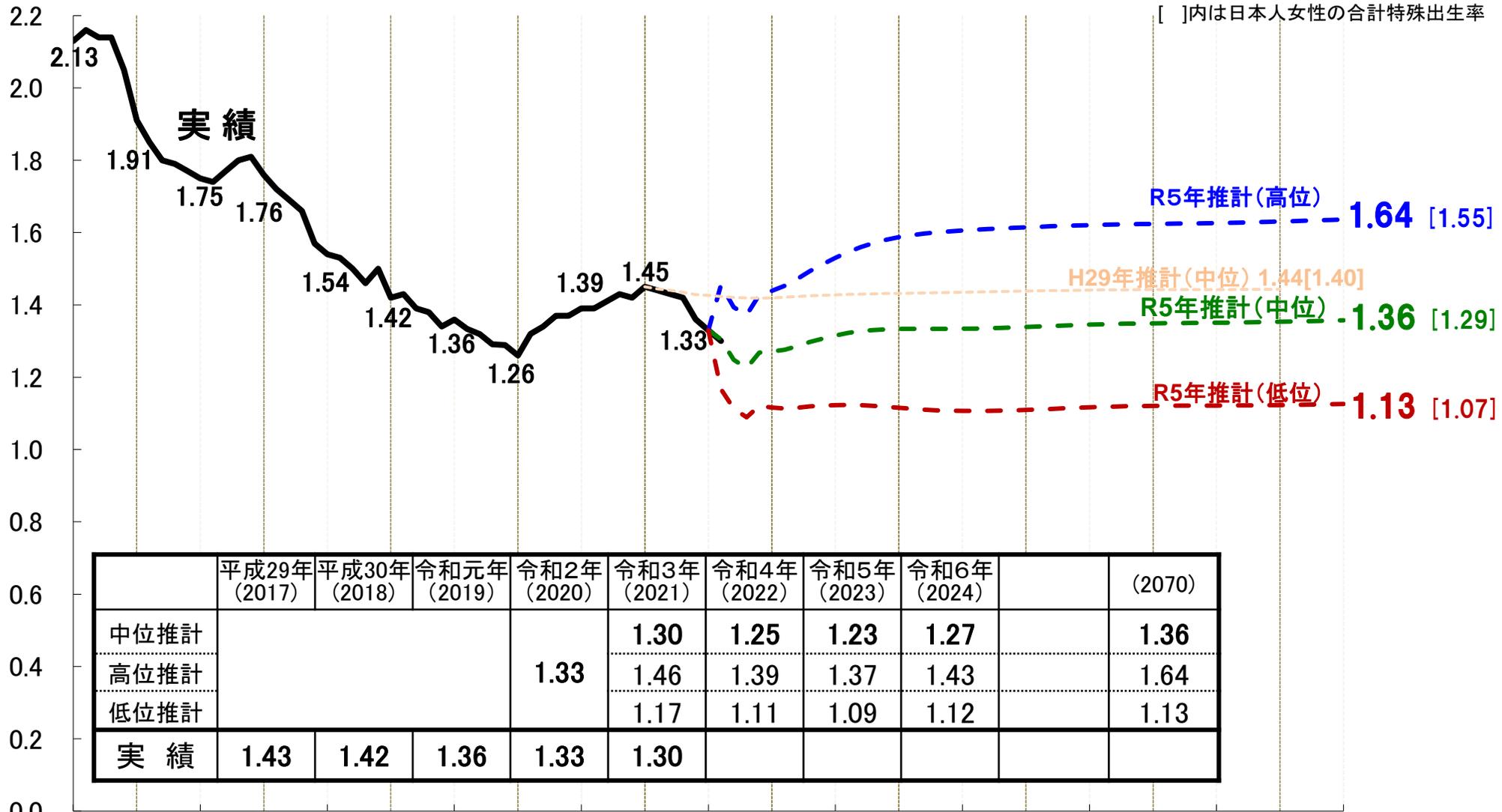
日本の人口の推移

○ 日本の人口は近年減少局面を迎えている。2070年には総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。



(出所) 2020年までの人口は総務省「国勢調査」、合計特殊出生率は厚生労働省「人口動態統計」、2025年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」(出生中位(死亡中位)推計)

合計特殊出生率の「実績」と「仮定値」

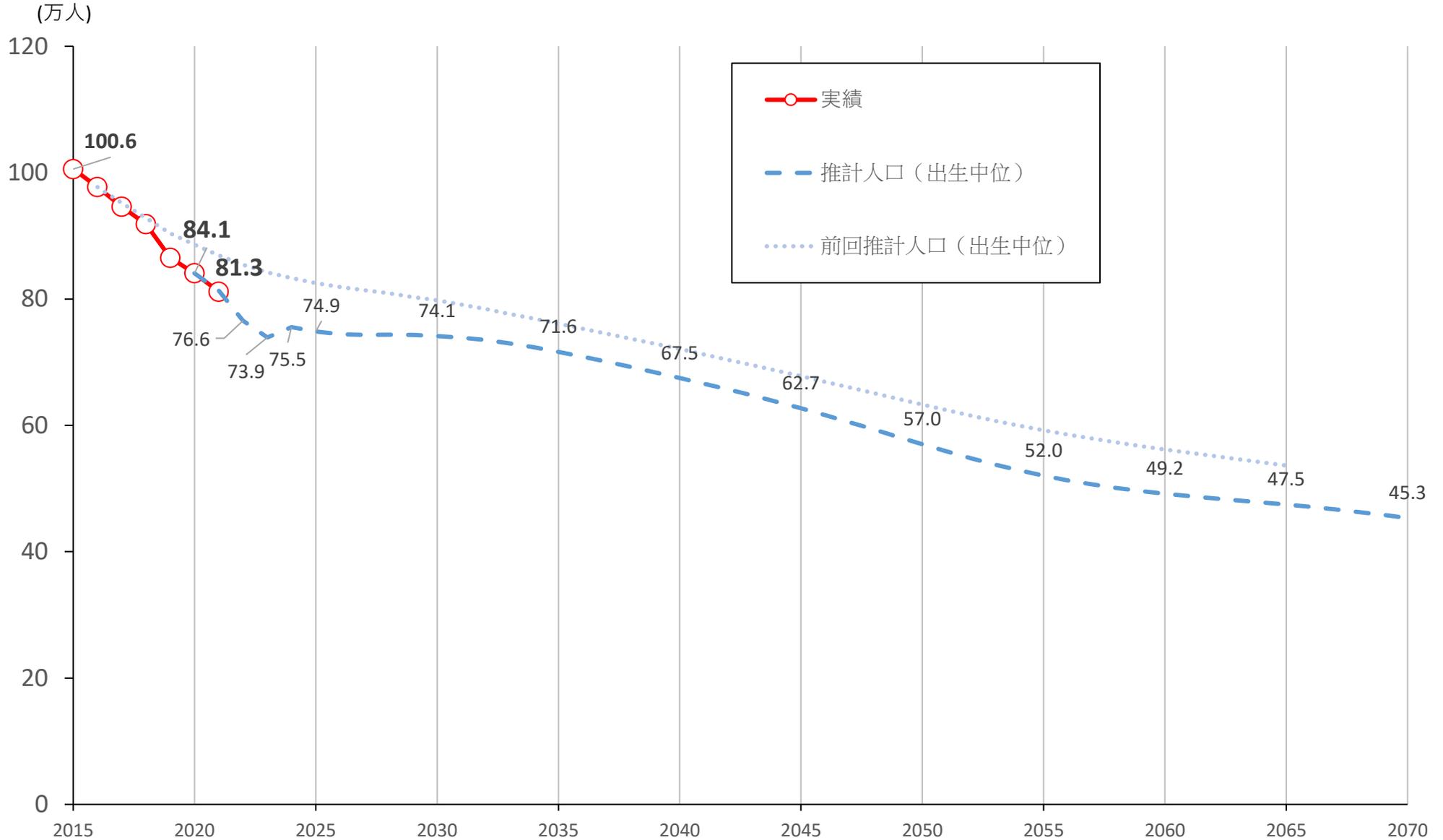


昭和45年 (1970) 昭和55年 (1980) 平成2年 (1990) 平成12年 (2000) 平成22年 (2010) 令和2年 (2020) 令和12年 (2030) 令和22年 (2040) 令和32年 (2050) 令和42年 (2060) 令和52年 (2070)

出所：実績は厚生労働省「人口動態統計」、仮定値は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」

※ 前回推計(H29推計)の2065年の合計特殊出生率は、高位1.65(日本人は1.59)、低位1.25(日本人は1.21)となっている。

出生数の動向（推計と実績）



(出所) 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)」、厚生労働省「人口動態統計」

(注) 将来推計人口の出生数は日本人によるもの

(年)